

独立行政法人地域医療機能推進機構

# JCHO登別病院通信

Japan  
Community  
Health care  
Organization

発行日 2018年10月

NO.5



登別湯かけ鬼藏

今月の表紙 撮影者 早坂祐美子

## 今月号の内容

- 新病院の基本設計概要に関する説明会について
- 新病院起工式
- 平成30年度 登別市シニア元気アップ講座に参加して
- ご存じですか？「在宅訪問栄養指導」
- 認知症サポーター養成講座
- 登別病院地域協議会
- JCHO登別病院のご案内
- 編集後記



## 新病院の基本設計概要に関する説明会について

事務長補佐（総務課） 平 間 國 男

6月28日（木）新病院の基本設計概要に関する説明会を登別市役所議場、登別婦人センターにて行いました。市職員25名、市議会議員17名、住民60名が参加されました。

新病院の建築概要・配置図、新病院のポイント・緊急対策などについて説明させていただき、下記のような質疑応答がありました。

- ①健診の受診者の動線はどうなるか。  
⇒健診受診者に専用の出入口を設置するが、病院から健康管理センターに行くこともできる。
- ②救急の受付はどこで行うのか。  
⇒休日・夜間は救急用エントランスの中に警備室があり、そこで対応する。

③工事の工程管理について、婦人センターへ工事の状況を説明し、町内会へ情報伝達ができるシステムを検討していただきたい。

⇒対応できるよう、検討する。

④工事の人区は。作業車は何台程度か。

⇒作業員は通常50名。最大200名程度。ダンプ200台、ミキサー車200台。1日最大100台程度。

⑤新病院で温泉を利用した治療は行うか。

⇒現状も行っておらず、新病院で温泉を引く予定はない。

等の内容であり、地域の住民からも、必要とされていることが感じられた1日でした。



## 新病院起工式

事務長補佐（総務企画） 平 間 國 男

9月25日（火）11:00より新病院建設予定地にて起工式が執り行われました。

出席者はJCHO本部から2名。当院からは院長をはじめ計14名。来賓として登別市より副市長はじめ4名、堀井学衆議院議員代理、赤根北海道議会議員、野尻室蘭市医師会会长ら計14名。施工者の大成建設からは今常務執行役員札幌支店長をはじめ計10名出席。総勢40名以上の参列をいただきました。

新病院建設現場は、生い茂っていた草木は伐採され、何もないためか、とても広く感じ、また、10月1日より工事が着工されることを

思うと、なんとかここまで来られ、いよいよという感じであります。

工事は始まりますが、我々職員は診療業務を継続しつつ、会議・書類作成・引っ越しの準備・電子カルテ導入に向けての準備等々があります。竣工は2020年2月。新病院開院は2020年4月1日と決まっております。

新病院開院移転準備に向け、職員が一丸となって進んでまいります。

特に地域の皆様には、工事期間中はご迷惑をおかけいたしますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。





## 平成30年度 登別市シニア元気アップ講座に参加して

リハビリテーション室 高野秀樹

今年も本講座が、7月23日に登別市民会館、8月23日に鶴別公民館、9月3日に婦人センターと、計3回行われました。登別市の一般介護予防事業の一環として毎年開催されており、65歳以上の登別市民を対象に、介護予防に対する意識向上を図ること、並びに地域リハビリテーションを推進することを目的として開催されました。

当院リハビリテーション室の活動としては、すずらん病院と協力しながら、準備段階では、講義内容とその資料作成、レクリエーションおよび体力測定の準備を、当日は、講演、レクリエーションと体力測定の司会進行を中心に、協力させて頂きました。

当日の講座では、健康寿命を延ばすために大切なこととして、フレイルの予防と転倒予防を骨子とした内容が話されました。健康には、身体に良い食生活（医食同源）、運動 [活動] 量の確保、質の良い眠りの三つが基本であること。フレイルとは、加齢とともに運動機能や認知機能が低下してきた状態をあらわし、要介護に至る前の状態と位置づけられ、予防と回復が重要であることが解説されました。フレイルについてや身体機能・認知機能維持への活動的な日常生活の重要性といった内容は、毎年参加されている方にも、

新鮮な内容だったようです。レクリエーションでは、割りばしを一人一段ずつ組み上げて次の人に手渡していくリレーや、ひらがなカードを使って3文字の単語を時間内に何個作れるかのゲームが行われ、特に3文字かるたでは、共同作業の面白さや出来た単語の滑稽さに笑いが巻き起こるなど皆さん楽しまれていました。体力測定では、握力測定、10m歩行、片足立ち、5回立ち上がりテストが行われ、皆さん全力で取り組まれ、測定結果と資料の年代別平均値との比較からご自分の体力を把握していました。アンケート結果からは、全体を通じ好評で定期的な開催の要望が聞かれました。

今講座への企画、参加を通しての今後の課題として、身体機能の加齢による衰えが日々の簡単な自主エクササイズにより軽減出来ることを、定期的な体力測定などのフォローにより明らかにしていけたら介護予防事業において有用であると考えています。なお今回からの取り組みとして、身体機能・認知機能維持の観点で役立つ基本的な知見と、簡単な自主エクササイズを載せた小冊子を作成し、継続しやすいようチェックシートを添えて配布いたしました。



## ご存じですか？「在宅訪問栄養指導」

栄養部 主任栄養士 水野 光

転倒され当院に骨折入院された、骨粗鬆症のある高齢者の方の自宅での食生活をお聞きしていると、もう食事を作るのが大儀との理由の“食べられるのに食べていない型”、もう年なので食べなくていいとの理由の“消極型”、もう好きなものしか食べたくないとの理由の“偏食型”といった“もう○○だから栄養不足”的な方がいらっしゃいます。骨粗鬆症の方の必要な栄養はカルシウムだけでなく、タンパク質と、干し椎茸や魚類に多く含まれるビタミンDも必要です。摂取量が足りない方はその栄養不足に当てはまります。入院中はそれぞれの方法で少量高カロリー食などを駆使し栄養管理を行い、整えさせていただきます。「栄養指導」というと食べ物の制限方法というイメージがある様ですが逆も得意です。近年、体力を回復され退院後、食事も含めた地域サービスを使用されるといった“食

べられるのに食べていない型”への地域ケアは整ってきました。ですが、“消極型”と“偏食型”的な方については、低栄養となって再入院されてくる度に悩みます。低栄養体力のスタートはリハビリの伸び率も遅いのです。 「在宅訪問栄養指導」は管理栄養士が病院から出て、地域の皆様へ「食力（食べる力）」維持のお手伝いができます。お一人での通院が困難な方が対象で利用は月2回まで、自己負担金は一回につき¥533（介護保険1割負担の場合）です。当院で地域指定ですが、毎月第3木曜日の訪問を実施しております。低栄養だけでなく飲み込みが悪くなつた方、癌等の自宅療養されている方、認知力低下から糖尿病まで様々に食事療法が困難になった事を心配される家族の方からの問い合わせも受け付けております。当院地域連携室又は栄養管理室までご相談ください。





## 認知症サポーター養成講座

地域包括支援センターゆのか 介護支援専門員 蒲 生 真理子

6月21日（木）、JCHO登別病院にて、寸劇を交え認知症の理解や関わり方について、「認知症サポーター養成講座」を実施しました。

看護職、コメディカルの方など、総勢47名が参加。最後には、認知症サポーターの証、「オレンジリング」をつけ記念撮影も行いま



した。

登別市の高齢化率は、平成30年6月現在、35.3%と年々増加傾向にあります。

認知症となっても、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる街づくりの一環として、地域包括支援センターが主体となり、市内の小中高等学校・町内会や老人クラブ・介護サービス事業所や一般企業等、様々なところで「認知症サポーター養成講座」を開催しています。

現在、登別市の認知症サポーターは登別市人口の10%、約6,000人が受講しています。私たちは、これからも活動を続け安心して暮らしていく街づくりを目指します。

## 登別病院地域協議会

地域医療連携室 秋葉裕子

7月26日（木）、第6回JCHO登別病院地域協議会を、ホテル平安2階クリスタルの間において開催しました。医師会・連携病院・行政等の方々、総勢11名の方にご出席いただき、当院からは院長他6名が出席し意見交換が行われました。

冒頭、伊藤院長より、平成32年新築移転予定の新病院建設の進捗状況及び登別市民等へ実施した説明会の状況について報告しました。

次いで、横山副院長より、「人生最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関する指針」の策定と当院の受け入れ体制について報告しました。医師会の方々より、「在宅での看取りを望んでいても不安が増し、病院での看取りへと変更されるご家

族もいる。このような際には心強い」との言葉を頂戴しました。

また、小澤統括診療部長より、当院の整形外科は365日24時間体制を整えている。今後も地域と協力し貢献ていきたいと抱負を述べ、行政からは今後もよろしくお願ひしたいと感謝の言葉をいただき閉会しました。



## 地獄祭りに参加して

リハビリテーション室 理学療法士 松 岡 宏 晃

今年も登別国際観光コンベンション協会様から「第55回登別地獄祭り」の参加協力依頼を頂きました。登別病院では、病院職員有志の会として約40人の職員が集い、8月25日に開催された鬼みこし・暴れねりこみに参加してきました。

私は1年目の新入職員として登別地獄祭りへは初参加でしたが、先輩方からは「終わつた次の日は肩が上がらなくなる」「筋肉痛に襲われる」といった言葉を聞かされ、大変緊張した中、当日を迎えました。

みこしの前日と当日の朝は大雨に見舞われ、「今日は中止になるのでは」と天候を心配しておりましたが、鬼みこしが始まるころには小雨となり、みこしは予定通り実施する事が出来ました。雨上がりのため気温が低下しており、小雨と寒さの中であったことが記憶に残っています。しかし、その寒さをしのぐがごとく、お揃いの法被を羽織り、重さ約1tもの鬼みこしを参加者が一丸となって担ぎ、温泉街は一気に熱気に包まれました。周りの観光客からも熱い声援を頂き、大いに登別温泉街を盛り上げることが出来ました。担いでい



る中で、観客方がお湯をかける「湯かけ」も行われ、満面の笑みでこどもたちがお湯をかけていたのが印象に残っています。

祭りに参加した後、先輩方が言っていた通り全身の筋肉痛には襲われましたが、みこしを担ぐ楽しさと一体感は忘れる事はできません。来年も地獄祭りに参加したいと強く思いました。今後も登別を盛り上げていくイベントへ積極的に参加することで、自らが住む登別地域に少しでも貢献していきたいと考えています。





# JCHO 登別病院のご案内

## ●外来診療体制

		月	火	水	木	金
整形外科	午前	オザワケイイチ 小澤慶一 ススキヨウスケ 薄陽祐	オザワケイイチ 小澤慶一 ススキヨウスケ 薄陽祐	スギ 杉 シユウゾウ 修造	オザワケイイチ 小澤慶一 (予約) (10時迄) オカグチメイ 岡口芽衣	スギ 杉 シユウゾウ 修造
外科	午前				出張医 (予約制)	
内科	午前	ツカハラダイスケ 塚原大輔	ツカハラダイスケ 塚原大輔	ツカハラダイスケ 塚原大輔	ツカハラダイスケ 塚原大輔	ヨコヤマトヨハル 横山豊治
	午後					
神経内科	午前	出張医(予約制)			出張医(予約制)	
	午後	"			"	
ペインクリニック	午前		カマタノリコ 鎌田紀子 (第2・第4)			
泌尿器科	午前				出張医(予約制)	
婦人科健診						最終木曜日のみ

※診療体制が変更となる場合があります。その際は院内告知やホームページ上でお知らせします。

## ●外来診療受付・診療開始時間

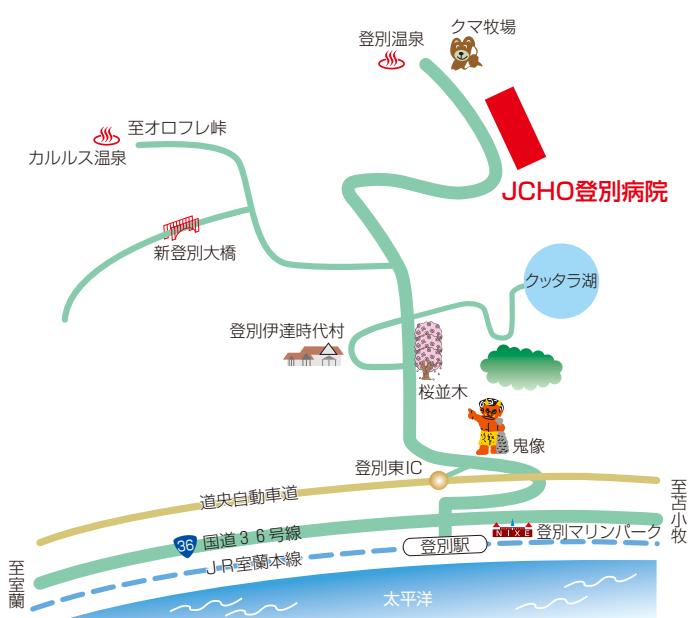
	診療受付時間	備考
午前	8時30分～11時30分	9時から(神経内科は9時30分)から診療開始です

※時間外の場合は事前にご連絡をお願いします。

※整形外科は24時間365日の診療体制をとっていますが、土日夜間等は内科系医師が初期対応する場合があります。

## 編集後記

皆様からのご協力をいただき第5号の広報誌を無事に発行することができました。ご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。今後とも広報委員会をよろしくお願いいたします。



### <各交通機関>

- JR登別駅下車(特急列車停車)登別温泉行きバス(病院前下車徒歩2分)
- 札幌-登別温泉高速バス(病院前下車徒歩2分)
- 道央自動車道: 登別東インターフェースより7分



ジェイコー  
**JCHO** 登別病院

独立行政法人地域医療機能推進機構登別病院

〒095-0598 登別市登別温泉町133番地

TEL(0143)84-2165 FAX(0143)84-3206

<http://noboribetsu.jcho.go.jp>

main@noboribetsu.jcho.go.jp

出版責任者 院長 伊藤美夫  
編集長 事務長 山田俊幸